

関中央ロータリークラブ

国際ロータリー第2630地区 東海北陸道グループ



2024～2025 年度 関中央ロータリークラブ 会長テーマ

「奉仕の実践を通じ、求められ、

必要とされるロータリアンに」

例会日：毎週木曜日 18時30分

例会場：関観光ホテル 岐阜県関市池尻 91-2

会長：大藪 太

副会長：土屋 敏幸

幹事：後藤 政之

会報：北原 慎

事務局：岐阜県関市下有知 1655-1 山田ビル 1-D

TEL (0575)24-7332 FAX(0575)23-5278

前例会の記録 第 2175 回

2025年5月8日(木)

卓話

関商工高等学校 副校長 笠井 寛 様

工業科教諭 牛丸 憲一 様

場所 例会場(関観光ホテル)

担当 インターアクト委員会

本日のプログラム 第 2176 回 例会 2025年 5月 15日 (木)

夫婦同伴親睦・小瀬鶏飼例会

担当：親睦活動委員会

*国歌「君が代」斉唱

*ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱

*4つのテスト唱和

*会長あいさつ 大藪 太 会長

皆さんこんばんは。本日のお客様をご紹介します。関商工高等学校 副校長 笠井 寛 様、工業科教諭 牛丸 憲一 様です。笠井様、牛丸様に



は後ほど卓話をよろしくお願い致します。さて、長かったゴールデンウィークも終わりましたが、最長で11連休を取った人もいた様です。今年は中間に平日が3日あったせいもあって、前半と後半に人手が分かれる傾向もあったようです。実際飲食店に入ってみても、以外と混んでいないこともあり。大手旅行会社 JTB の旅行動向によると、アンケート調査の結果「旅行に行かない」という人が約8割にのぼったそうです。理由としては「旅行費用が高いから」が34.6%で去年より0.9%増

加、「家計に余裕が無いので」が25.9%で同じく1.9%増加しています。そうした中1番多い理由が「混雑するから」で45.9%でした。外国の観光客も過去最多という話もありますし、オーバーツーリズムに懸念を持っている人が多いということのようです。旅行先を選ぶ理由として「混雑してなさそう」が7.9%で、年々増加しています。こうした状況から見てきた旅行のトレンドが「分散化」です。例えば東海地方の人が東海地方を旅行先として選ぶケースは昨年より減少し、他の地方に流れています。特に今年は4月13日に開幕した大阪・関西万博や関西のテーマパークを楽しむプランが多く、これは全国的な傾向のようです。いずれにしても平均旅行費用が前年を上回っているのは、いわゆるインバウンドの増加によるオーバーツーリズムで、ホテルの宿泊代などが上昇していることなどが背景にあるようです。そもそもインバウンドの増加の一因となっているのが、過度な円安であり、「旅行先を選んだ理由」の中では「円安などの影響を受けて、旅行先を海外から国内に変更した」人も多く、旅行を楽しむことが出来る層の中でも、物価高や円安が一定程度的影響を及ぼしていると言えそうです。インバウンドによる一定の経済的効果はあるにせよ、普段でさえ混み合っている観光地へ、連休中に出かけるのを避ける行動は、日本人がオーバーツーリズムに辟易しているのかもしれませんが。ところで私は5月1日(木)、家内と帰省していた息子と3人で岐阜公演に行ってきました。前の週の土曜日に岐阜城楽市がオープンしたばかりでしたので、混雑は覚悟して行ったのですが、駐車場には割とスムーズに入れました。着いたのがちょうど昼時で、食事をしようと思ったのですが、オープンした楽市の飲食店は何処も長蛇の列でしたので、とりあえずハンバーガーとポテトチップスを買って、外で食べて腹ごしらえをしました。その後、家内と息子は金華山に登るということで、てっきりロープウェイで登るものと思っていたら、歩いて登るつもりだったようで、どうしたものかと思いましたが、付き合わないわけにもいかず、仕方なく一番楽そうなコースを選んで登ることにしました。金華山に登るのは15年ぶりくらいでしたが、約2.3kmの道のりを約1時間かけて、ゼイゼイ言いながら休み休み登りました。頂上の岐阜城から見る景色はやはり絶景で、信長がここに城を築いた訳も納得できるものでし

た。下りは時間が遅くなるからと、都合の良い理由を付けてロープウェイで降りてきましたが、ロープウェイからの景色も一見の価値があるものでした。降りてから、少し人手が少なくなっていた楽市を散策しましたが、途中で林会員が出店している「魚久」の前を通りかかりました。偶然林さんがいたので、少し話をしましたが、朝の9時から夜の9時まで営業しているそうで、朝食から夕食まで提供しており、長良川の鵜飼いが始まれば、夜10時まで営業するということです。和風ですがカフェの雰囲気もあり、いろんな世代に受けそうなお店でした。

*卓話

関商工高等学校

副校長

笠井 寛 様

工業科教諭

牛丸 憲一 様

テーマ



『 関商工高等学校紹介と地域連携活動について 』

関商工の教育方針

学校教育目標(教育方針)

「至誠明朗」の校訓を体し、知・徳・体の調和のとれた創造的・人間性豊かな実践力のある地域社会人の育成を図る。

- 1 充実した教科指導の徹底により、地域産業界から必要とされる人材の育成
- 2 基本的な生活態度の育成により、地域から愛される人材の育成
- 3 活発な部活動の推進により、地域から期待される活力ある人材の育成

スクールミッション(社会的役割)

地域の産業教育を担ってきた専門高校として、企業・地域と連携した学びによって最新の専門知識と技能の修得を通して、将来の地域の産業を支える人材の育成を目指す学校。

地域連携の状況

地域連携学習の目的

生徒が地域社会の一員として自覚を深め、地域課題の解決や地域振興に貢献する能力を育成すること

地域連携活動 → 課題の発見 → 課題解決への取

り組み

工業科・商業科とも地域自治体や企業と連携し、様々な活動を実施 幅広い体験 視野の広がり 達成感など
課題 「体験」は多いが、「深い学び」に繋がっていない
→ 単発的で限定的なもの(教育課程の位置づけ、依頼内容の問題)

課題 「深い学び」に繋げるためには

必要なこと:コーディネーターの確立

体験から深い学びに繋げる工夫が不可欠

互いに考え、悩みながら課題解決に向かっていくシステムの構築

◎関商工インターアクトクラブ

部員数 男子 1年 206名 2年 185名 3年 187名

女子 1年 76名 2年 68名 3年 71名

合計 1年 282名 2年 253名 3年 258名

総合計 793名

スポンサー 関中央 ロータリークラブ

2025-26年度 会長 吉田 和也

IA委員長 古田 博文

クラブの特色

- ・世界の高校生との交流(台湾等)を通じて国際理解を深める。
- ・里山活動、清掃活動への参加を通し、大きな視野で環境を考える態度を育成する。
- ・生徒会活動や部活動との連携を強め、奉仕活動を推進する。

活動方針

- ・地域での活動や、様々な学校の生徒との交流を通じて、ボランティア活動に理解・関心を高めると共に、国際感覚を身に付ける。
- ・募金活動を通じて社会に貢献する。

会員増強計画

・2019年度より、インターアクトをクラスの係活動に位置づけ、クラス役員として1年生のみ各2名ずつ(計16名)選出し、会員としては全校生徒とすることにした。

6月 ・長良川流域一斉環境調査

小瀬鮎の瀬上流右岸

① 自然度調査

② 水質調査(パックテスト)

③ 透明度調査



8月 ・IA 年次大会 ・学校近郊清掃活動

10月 ・刃物まつりでの募金活動

11月 ・里山整備活動

関市上迫間 ふどうの森広場周辺



◎商業科

関商工会議所青年部で専門家を招聘し指導(毎週)

◎工業科

企業技能者からの技術、デザイン指導(毎週) 建築士、グラフィックデザイナー(年間)

令和7年度「グローバル探究」「外部団体とコラボする木育ワークショップ」チャレンジ予定

生徒+教員+コーディネーター

=共に悩みながらの新しいコトづくり、モノづくり

*出席委員会

会員数 30名、本日の出席 17名です。

*ニコボックス委員会

・会長 副会長 幹事

関商工 副校長 笠井様、工業科教諭 牛丸 様、本日はお忙しい中お越しいただきありがとうございます。卓話よろしくお願いいいたします。

・石原 妙生 会員

本日は関商工の笠井先生、牛丸先生、卓話よろしくお願います。

追伸:ゴールデンウィークに林会員の新しい店「岐阜城楽市の魚久」へ行って来ました。大変にぎわっていて、食事も良かったです。



17 名のご投函ありがとうございました。

*幹事報告

・5月のロータリーレートは1ドル142円です。

・例会終了後、理事・役員会を行います。

<次例会の案内>

第 2177 回 5月22日 (木)

卓 話

NPO 法人長良川環境レンジャー協会

副理事長 名和 あけみ 様

テーマ

『長良川環境レンジャー協会の活動について』

担 当 社会奉仕委員会

5月29日(木) 休 会